

JAMトピックス

2012年度
政策・制度要求
中央討論集会

運動への反映・実現めざし

60歳超雇用、社会保障、エネルギーなど討論

2012年6月19日
編集：JAM本部

JAMの政策・制度要求を討論し、2013年度の運動へ反映・実現を目指す「JAM政策・制度要求中央討論集会」が2012年6月8日、9日の両日熱海市で開かれた。

今年は、基調講演に京都大学大学院経済学研究科の石水喜夫経済学部教授を迎え「職場から考える日本経済再生の展望」と題し、市場原理主義ではなく、生きている職場の価値観・運動と経済学が一体となれば日本経済の政策転換ができる—という講義を受けた。



＜集团的労使関係で経済転換を語る石水氏＞

分科会は①「職場に絆。見えない壁が出来ていませんか？」②「あなたの安全度は何点ですか？」③「あなたの家庭と職場、電気が自由に使えないとき、どうしますか？」の3テーマで論議。



＜第1分科会は高齢者雇用、有期労働について議論＞

第1分科会では高齢者雇用について雇用形態や処遇、有期労働契約について非正規の組織化への対応について議論した。



＜第2分科会は社会保障制度改革への理解を深める＞

第2分科会では連合の策定した「21世紀社会保障ビジョン」に基づいたこれからの社会保障について理解を深め、勤労者にとって必要な社会保障制度について議論した。

第3分科会では東日本大震災以降、話題になっているエネルギー政策について当面の電力問題にいかに対処すべきか、また、「安定供給」「コスト」のみならず「安全・安心」「環境負荷」の観点から、今後のエネルギー政策—などについて討議した。どのテーマも今、勤労者が直面している喫緊の課題であった為、理解を深めるための質問や実体験に基づいた意見など白熱した分科会となった。

参加者は、地方・単組の役員をはじめ271人。



＜第3分科会はエネルギー政策と対応を議論＞